# 第3章

# 千葉県が目指す姿

## （基本構想編）


第1節　基本理念

第2節　基本目標・目指す姿

Ⅰ　危機管理体制の構築と安全の確保
Ⅱ　千葉経済圏の確立と社会資本の整備
Ⅲ　未来を支える医療・福祉の充実
Ⅳ　子どもの可能性を広げる千葉の確立
Ⅴ　誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現
Ⅵ　独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

第3節　県づくりの方向性

○東葛・湾岸ゾーン　○印旛ゾーン　○香取・東総ゾーン
○九十九里ゾーン　○南房総・外房ゾーン　○内房ゾーン

# 第1節　基本理念

## ～千葉の未来を切り開く～
### 「まち」「海・緑」「ひと」がきらめく千葉の実現

本県では、新型コロナウイルス感染症や、気候変動の影響による自然災害の激甚化、人口減少に伴う地域経済の縮小、都市・集落機能の低下など、様々な課題が山積しています。

また、社会経済のグローバル化が進むとともに、デジタル化の進展や脱炭素化の取組などにより、様々

な分野で急速にイノベーションが進展し、県民生活には大きな影響が及ぶものと考えられます。

本県は首都圏に位置し、日本の空の表玄関である成田空港や国際拠点港湾である千葉港、東京湾の中央部を横断するアクアラインなどを有し、京葉臨海コンビナートに代表される素材・エネルギー産業の集積や、全国屈指の産出額を誇る農林水産業など、バランスの取れた産業構造が形成されています。

また、貴重な干潟が残る東京湾や長大な砂浜が続く九十九里浜など、変化に富んだ姿を見せる海に囲まれ、利根川や江戸川、印旛沼や手賀沼など、多様な水辺空間を有するほか、房総丘陵には緑豊かな山々が連なるなど、恵まれた自然環境が広がっており、各地域には、それぞれの特徴ある文化が息づいています。

こうした中、県では、喫緊の課題や社会環境の変化などに対応するとともに、海と緑に囲まれた自然環境や優れた都市機能を生かし、豊かな県民生活を実現していかなければなりません。

そこで、基本理念として、「～千葉の未来を切り開く～『まち』『海・緑』『ひと』がきらめく千葉の実現」を掲げ、社会を取り巻く環境が複雑さを増す中でも、県民の命とくらしを守るとともに、全ての県民が自身のライフスタイルを実現し、生きる価値、働く価値を感じられる「千葉の未来」の創造を目指していきます。

# 第2節　基本目標・目指す姿

基本理念を実現するため、県民の命とくらしを守る視点から「危機管理」「産業・社会資本」「医療・福祉」「子ども」について基本目標を設けるとともに、多様な個性が力を発揮できる社会をつくる視点から「共生」、本県が培ってきた財産を守り、活用する視点から「自然・文化」について基本目標を設け、これに沿って、10年後の目指す姿を明らかにします。

Ⅰ　危機管理体制の構築と安全の確保

Ⅱ　千葉経済圏の確立と社会資本の整備

Ⅲ　未来を支える医療・福祉の充実

Ⅳ　子どもの可能性を広げる千葉の確立

Ⅴ　誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現

Ⅵ　独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

# Ⅰ　危機管理体制の構築と安全の確保

新たな感染症や大規模災害に対して迅速かつ的確に対応できる体制や強じんな防災基盤の整備が進むことにより、県民や企業が安全・安心に活動できる千葉県が確立している。

防犯・交通安全対策が整い、事件・事故の不安なく安全・安心に暮らせる環境が整っている。

## 1　感染症や災害に対する迅速かつ的確な危機管理体制を構築している千葉

●新型コロナウイルス感染症などの新たな感染症に対し、市町村等と連携した感染防止対策の実施や、感染拡大時における県と医療関係機関等との連携した対応など、オール千葉県で県民の命とくらしを守る体制が整っている。

●令和元年房総半島台風等の一連の災害を踏まえ、県庁内の危機管理体制が強化されるとともに、停電や断水などへの対応も含め、県や市町村、ライフライン事業者等の密接な連携体制が構築され、地震、台風、豪雨などの災害から県民を守る体制が確立されている。

●県民一人ひとりが、感染防止や防災に関する正しい知識を有するとともに、地域住民同士が助け合い、適切に行動できる体制が整っている。

## 2　様々な災害に対する防災基盤等の整備が進んでいる千葉

●令和元年房総半島台風等の一連の災害を踏まえ、水道施設等の停電や浸水への対策が図られるとともに、河川・海岸施設の整備が推進されている。

●橋りょうや港湾施設等の耐震化が計画的に行われ、地震に強い社会資本整備が進んでいる。

●建築物の耐震診断・耐震改修が進むとともに、洪水等に対しても、住まい方の工夫が徹底され、災害に強いまちづくりが図られている。

## 3　防犯対策と交通安全施策が行き届いている安全・安心な千葉

●犯罪の徹底検挙が図られるとともに、県民一人ひとりが防犯意識を持ち、県民・事業者・市町村・県が一体となって、犯罪の不安がない安全・安心な社会が実現している。

●県民の安全を著しく脅かすテロなどが発生した際に、迅速かつ的確に対応できる体制が整っている。

●歩道や自転車通行環境の整備、交差点の改良など、安全で快適に通行できる環境が整うとともに、交通安全の意識が県全体に行き渡り、飲酒運転などの危険行為がなく、県民が安心して通行できる社会が実現している。

●消費者が身近な市町村で相談を受けられるとともに、消費生活に関する教育の機会や情報が十分に提供されるなど、消費者被害を未然に防止する体制が整備された社会が実現している。

# Ⅱ　千葉経済圏の確立と社会資本の整備

成田空港の更なる機能強化や道路ネットワークの充実・強化により、本県の広域的な拠点としての優位性が飛躍的に高まる中で、千葉ならではの自立性の高い経済圏の確立が進んでいる。

デジタル化の進展や脱炭素への取組など、社会環境の変化を確実に取り込み、新しいビジネスや産業が本県から生まれている。

また、スマート農林水産業の推進や生産性の向上、消費者ニーズに基づく販売促進などにより、農林水産業が魅力ある力強い産業に育っている。

## 1　社会経済環境の変化を確実に取り込み地域経済が活性化している千葉

●成田空港の更なる機能強化と道路ネットワークの整備を生かし、企業立地の促進や新たな産業の振興により、雇用の創出や地域経済の活性化が図られている。

●京葉臨海コンビナートが技術革新を行いながら、競争力を維持し、本県経済をけん引している。

●洋上風力等の再生可能エネルギーの発電施設の整備が進み、県内企業の参入や企業立地の増加により、再生可能エネルギー関連産業の集積が図られている。
また、水素などの次世代エネルギーの研究や応用が進み、素材・エネルギー産業のほか、交通や物流をはじめ、幅広い分野で活用されている。

●中小企業が自らの特性を生かし、生産性の向上や事業の円滑な継続により、引き続き地域経済を力強く支えている。

●女性・若者・シニア等の新たな発想による特色ある多様な起業・創業が進み、県内経済の活力が増している。

●地域経済をけん引している人材育成が進むとともに、全ての県民が自己実現できるような、多様で柔軟な働き方が実現している。

●本県の持つ海や緑などの自然や独自の食文化などの魅力が発掘され、十分に生かされることで、誰もが何度でも訪れたくなる観光地づくりが進み、季節を問わず千葉に多くの観光客が訪れている。

## 2　農林水産業が魅力ある力強い産業に育っている千葉

●本県の農林水産業を支える人材が活躍し、所得の向上が図られるとともに、働きやすい環境が整えられることで、農林水産業を魅力ある職業として選ぶ若者が増え、世代間のバランスが取れた就業構造が実現している。

●将来の具体的な農地利用の姿について地域の合意形成が図られ、農地の集積・集約※と持続的管理が行われている。

●先端技術の導入による「スマート農林水産業」の進展など、生産性の向上が図られるとともに、環境に配慮した生産活動や水産資源の適切な管理等により持続性を確保しつつ、成長産業として発展している。

●農林水産物の生産・流通・販売において、加工や鮮度保持などによる高付加価値化やＩＣＴの活用による効率化が進み、マーケットニーズの多様化に対応できる体制が構築され、国内外で販路が拡大している。

●千葉の魅力を生かした「農山漁村と食」の文化が創出され、本県の農林水産物が好んで選ばれている。

## 3　交通ネットワークの整備と社会資本の充実が進む千葉

●県内の広域的な幹線道路ネットワークの整備や国道・県道の整備により、成田空港へのアクセスや県内各地へのアクセスが強化されることで、人やモノの流れが活発になり、半島性の克服につながっている。

●道路、公共施設などの社会資本が適正に維持管理されるとともに、長寿命化が進んでいる。

●県民が安心して飲める良質な水が安定的に供給されている。

●地域が持つ魅力が最大限に生かされたまちづくりが進み、県民がゆとりあるくらしを楽しんでいる。

●バリアフリー化が進み、障害のある人も、高齢者も誰もが安心して快適なくらしができている。

# Ⅲ　未来を支える医療・福祉の充実

必要な時に必要な医療が受けられる体制が整っているとともに、県民の健康寿命が延伸し、健康で生き生きと暮らせる地域づくりが進んでいる。

医療・福祉・地域が密接に連携し、高齢者・障害のある人等が住み慣れた地域で自分らしく暮らせる環境が整っている。

## 1　健康で生き生きと安心して暮らせる千葉

●医療機関の機能分担・連携が進むとともに、ＩＣＴなどを活用した最先端の医療技術の導入が進み、県内の医療従事者の育成・確保が図られ、地域において質の高い医療サービスが提供できる体制が構築されている。

●県民一人ひとりが、がんの予防や早期発見に努めるとともに、がんになっても安心して納得した最善の医療を受けられる体制づくりが進んでいる。

●県民一人ひとりの健康意識が高まり、健康でこころ豊かに暮らす社会の実現が図られている。

## 2　誰もが住み慣れた地域で<br>個性豊かにその人らしく暮らせる千葉

●誰もが互いに見守り支え合う地域づくりが進み、高齢者が意欲や能力を生かしながら住み慣れた地域で元気に生活している。

●障害のある人がその人に合った福祉サービスを選択しつつ、地域の中で、その人らしく暮らせる環境が整っている。

# Ⅳ　子どもの可能性を広げる千葉の確立

妊娠・出産・子育てに必要なサービスが提供され、全ての子どもに明るい未来が広がっている。

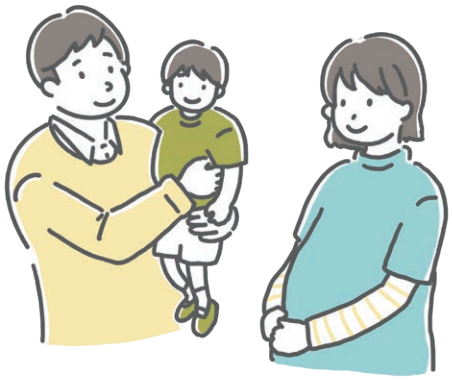
個性や能力に応じたきめ細やかな指導体制により、児童生徒一人一人の可能性を広げ、社会で活躍できる人材を育成する教育が行われている。

## 1　誰もが希望どおりに妊娠・出産・子育てができる千葉

●子育て世代の経済的な安定が確保され、妊娠期から子育て期まで一貫した相談支援体制が整い、不安のない子育て環境が実現している。

●男女が共に意欲と能力を生かして働きながら、安心して生み育てやすい社会の構築が進んでいる。

●多様なニーズに応じた、きめ細やかな保育サービスが構築されるとともに、児童が、家庭や学校以外でも安全・安心に過ごすことのできる居場所が確保され、子どもの健全な成長・発達につながっている。



●相談体制の充実や関係団体の連携などにより、児童虐待が防止され、全ての子どもに明るい未来が広がっている。

## 2　児童生徒一人一人の可能性を広げ社会で活躍できる人材を育成する千葉

●「知」「徳」「体」のバランスの取れた「生きる力」やコミュニケーション能力、創造性など人間本来の普遍的な力を備え、社会で活躍できる人材が育成されている。

●情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実が進み、ＩＣＴ等を活用して課題解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が育まれている。

●自信を育み安心して学ぶことのできる環境が整備され、誰一人取り残すことのない教育が実現している。

●つながりや支え合いによる地域コミュニティが形成され、地域で子どもの育成に関わる体制が構築されている。

●家庭・学校・地域が連携しながら、社会全体で子ども・若者の成長を支える社会づくりが進んでいる。

# Ⅴ 誰もがその人らしく生きる・分かり合える社会の実現

多様な個性を持つ人々が社会に参画し、その人らしく生きていくことができる社会づくりが進み、活力あふれる千葉が実現している。

多様な主体が連携・協働し、様々な課題解決に取り組んでいる。

## 1 誰もがその人らしく生きていくことができる千葉

●一人ひとりが違った個性や能力を持つ個人として、社会に参画し、その人らしく生きていくことができる社会づくりが進んでいる。

## 2 多様な主体が連携・協働し様々な課題解決に取り組んでいる千葉

●行政や県民、企業、団体など様々な主体が連携・協働し、社会の様々な課題解決に取り組んでいる。

●多数の県民が自発的にボランティア活動などに参加しており、地域における新たな支え合いの確立が進んでいる。

●市民活動団体※の基盤強化が進み、地域活動の支えとなっている。

●社会変化に対応した学習機会の拡充やリカレント教育※の推進などにより、社会で必要とされる知識や技能をいつでも習得することができる生涯学習社会が実現している。

# Ⅵ　独自の自然・文化を生かした魅力ある千葉の創造

独自の文化を次世代に継承するとともに、多様な文化、スポーツの振興が図られている。また、豊かな自然環境などが観光地づくりや子育て、移住・定住の促進など、幅広い分野で活用されている。

## 1　様々な「千葉」の魅力の活用により人々が集う千葉

●千葉の持つ様々な魅力が発掘され、更に向上し、広く発信することで、多くの人々が本県を訪れている。

●首都圏にありながら、海をはじめとした豊かな自然に囲まれた千葉で暮らすことの価値が高まり、本県への移住・定住につながっている。

●都市住民との交流の拡大により農山漁村を支える新たな動きが生まれ、農山漁村が国土や自然環境の保全、文化の伝承などにかけがえのない、大きな役割を果たしている。

●本県の特色である豊かな地域資源の活用や多様な人材の活躍により、農山漁村が活性化している。

## 2　豊かな自然環境が守られ、活用されている千葉

●里山・谷津田など、房総の自然豊かな環境の大切さが広く浸透し、県民が自然の恵みを身近に感じながら暮らすとともに、自発的に自然環境を守るよう行動している。

●生物の多様性が保全され、人と野生生物とが適切に共存している。

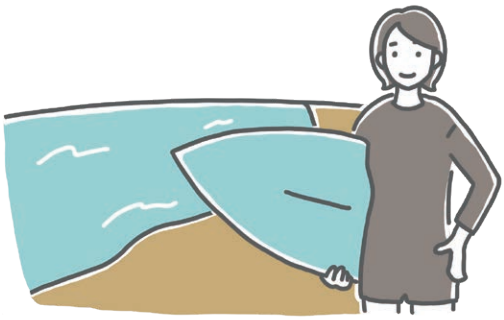
●洋上風力発電や太陽光などの再生可能エネルギーや水素等の脱炭素燃料の活用等が進むとともに、行政・県民・事業者がカーボンニュートラルに向けた取組を一体となって進めている。

●廃棄物の発生を抑制するとともに、減量化や再資源化を推進し、それでも不要となったものを適正に処理する、「もの」を大切にする社会が築かれている。

## 3　誰もが文化芸術・スポーツに親しめる千葉

●本県の豊かな自然と長い歴史の中で育まれてきた郷土芸能、食文化、伝統技術等、魅力あふれる地域の多様な伝統文化を継承していく体制が整っている。

●本県の特徴である恵まれた自然環境や都市機能を生かした野外イベントなどの文化芸術活動や、時代の流れの中で生まれた新しい文化芸術活動が活発化し、千葉の魅力として、人々を引き付けている。



●県民が日常生活の中で、気軽に多様なスポーツに親しめるよう、環境の整備が進んでいる。あわせて、東京2020大会を契機としたパラスポーツの振興などの取組を生かし、更なるパラスポーツの普及促進が図られている。

# 第3節　県づくりの方向性

## 【各地域の課題や特性を踏まえた取組の推進】

本県では、東京との近接性や自然環境、歴史的経緯などにより、それぞれの特性を生かした産業や文化が育まれ、個性ある地域づくりが進められてきました。

県北西部では、人口増加や商工業の集積が進み、東京湾臨海部には我が国を代表する工業地帯が形成され、また、県南部や東部では、農林水産業や観光業の振興が図られてきました。こうした中、県では、首都圏の業務機能の一翼を担う拠点として「成田国際空港都市」「柏・流山地域」「幕張新都心」「かずさ地域」のまちづくりを進め、地域振興を図ってきたところです。

また、本県は、優れた都市機能・社会インフラを持つとともに、豊かな自然環境や魅力的な観光地、多様な文化を有し、農林水産業･商工業などバランスの取れた産業構造を形成しています。さらに、今後、成田空港第3滑走路の供用開始等により更なる機能強化が図られるとともに、圏央道の県内区間の全線開通、北千葉道路の整備進展など、成田空港を中心とした大きな道路ネットワークの完成が見込まれています。

今後の県づくりの方向性としては、県内外を結ぶ道路ネットワーク等の整備を着実に進めるとともに、地域が有する多様な魅力を県内外へ戦略的に発信することで、その効果を最大限に発揮し、「人･モノ･財」の流れをより一層大きくして、各地域の産業振興、魅力あるまちづくりの推進、交流人口の増加、移住･定住などにつなげ、県全体の活性化を図り、県内外から求められる千葉を実現する必要があります。

現在、県内各地域は、人口減少や少子高齢化、新型コロナウイルス感染症などにより様々な影響を受けていますが、その状況は県内一律ではないことから、地域の実情に応じた対応が求められています。

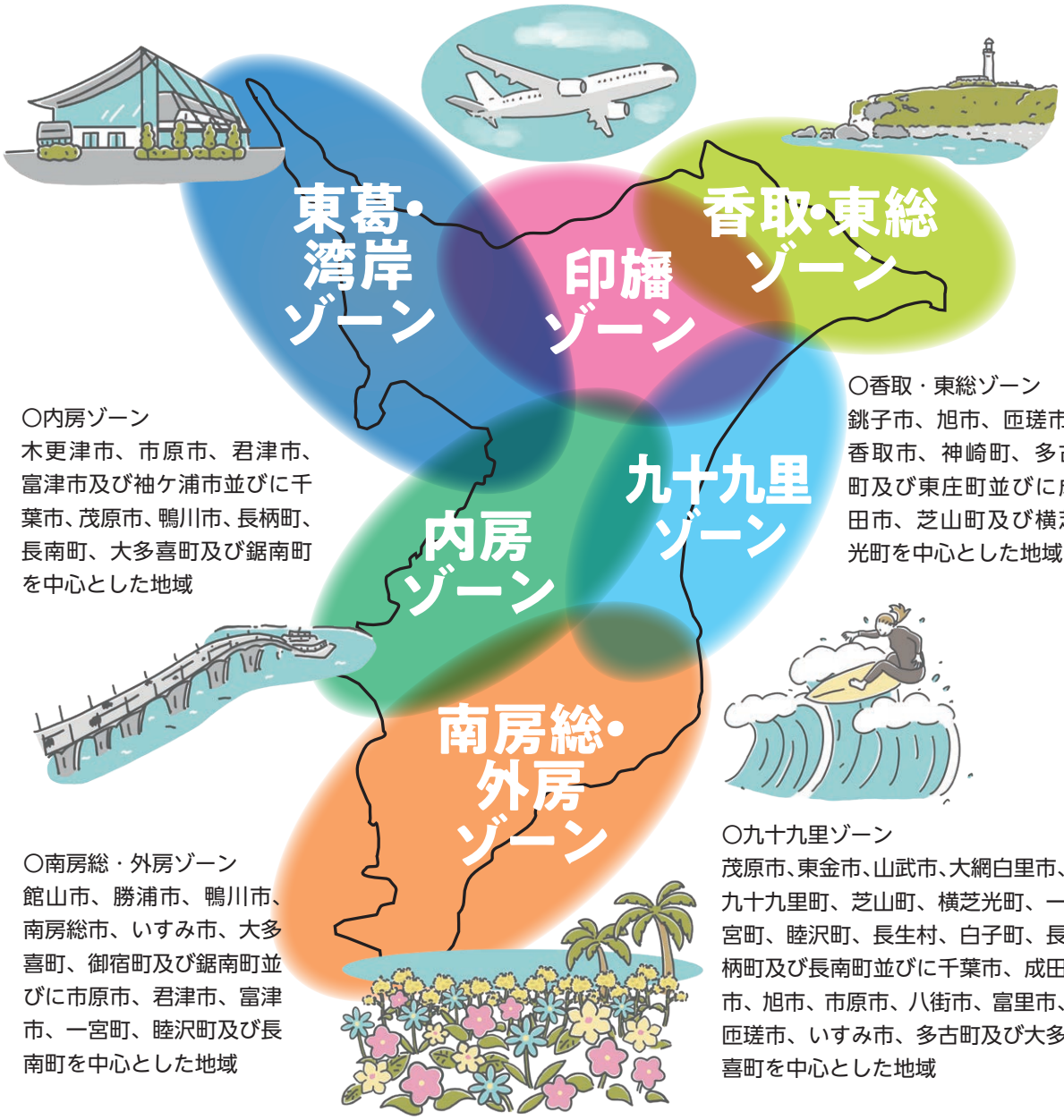
こうしたことから、人口や産業構造、地理的条件、交通網の整備状況等、各地域が持つ特性を把握した上で、共通する特性や可能性を持つ地域を大きなくくりとして、6つのゾーンを設定し、それぞれの特性や強みを踏まえ、地域の活性化に向けた取組の方向性を示すこととしました。

なお、人々の生活や企業の経済活動等は、市町村の枠に捕らわれずに展開されているものであり、産業基盤や交通網の整備等により変化することも想定されることから、ゾーン設定は市町村域と必ずしも一致するものではなく、一つの市町村が複数の特性を併せ持つ場合もあります。

## 〔各ゾーンはおおむね次のような地域を想定しています。〕

○東葛・湾岸ゾーン
千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ケ谷市及び浦安市並びに市原市、四街道市、八街市及び白井市を中心とした地域

○印旛ゾーン
成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町及び栄町並びに八千代市、香取市、山武市、神崎町、多古町、芝山町及び横芝光町を中心とした地域




○香取・東総ゾーン
銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町及び東庄町並びに成田市、芝山町及び横芝光町を中心とした地域

○内房ゾーン
木更津市、市原市、君津市、富津市及び袖ケ浦市並びに千葉市、茂原市、鴨川市、長柄町、長南町、大多喜町及び鋸南町を中心とした地域

○九十九里ゾーン
茂原市、東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町及び長南町並びに千葉市、成田市、旭市、市原市、八街市、富里市、匝瑳市、いすみ市、多古町及び大多喜町を中心とした地域

○南房総・外房ゾーン
館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町及び鋸南町並びに市原市、君津市、富津市、一宮町、睦沢町及び長南町を中心とした地域

注
1　行政各分野における個別計画の策定やサービスの提供に当たっては、このゾーン設定にかかわらず、それぞれの観点から圏域設定を行う必要があります。
2　このゾーンは、市町村間の自主的な連携を妨げるものではありません。
3　人口に関する数値は、「令和2年国勢調査」のデータを用いています。ただし、将来推計人口については、平成30年度に社人研が行った将来推計人口のデータを用いています。

## 【ゾーンごとの方向性】

# 東葛・湾岸ゾーン

富士山と幕張新都心

千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ケ谷市及び浦安市並びに市原市、四街道市、八街市及び白井市を中心とした地域

## 【ゾーンの現状・特性】

### 1　地域に暮らす人々

本ゾーンには、県人口の67%に当たる約418万人が居住しています。ゾーン内の65歳以上の高齢者の割合は25%と、県全体の割合より2ポイント低く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が61%と、年齢構成の若いゾーンです。

令和12年には、ゾーン内の人口はおおむね横ばいであるものの、高齢化率は28%になると予想され

ています。

また、労働力人口に対する一次産業就業者の割合が1%未満であるのに対し、三次産業就業者の割合が約8割を占めており、三次産業就業者の割合が非常に高くなっています。

都内への通勤・通学者が多く、日常生活における東京とのつながりの強さを感じるゾーンです。

## 2　産業

本ゾーンは、東京に隣接し、成田空港・東京国際空港（以下「羽田空港」という。）へのアクセスに優れ、企業や大学、研究機関が集積する産業基盤の充実した地域です。

東葛地域は、電気機械、金属製品、一般機械を中心に、技術力のある企業が数多く立地するとともに、大学や研究機関等の集積を生かし、医療、バイオテクノロジーなどの先端技術産業分野の研究開発や、ベンチャー企業の育成なども活発に展開されています。

湾岸地域は、国際拠点港湾に指定されている千葉港を有しており、鉄鋼や食品などの企業集積が進み、国内有数のテーマパークや大型商業施設なども立地しています。

また、外環道及び国道298号の開通は、本ゾーンの利便性向上や交通環境の改善、地域産業の活性化に大きく寄与しています。

さらに、大消費地に近接しており、なしなどの果樹のほか、こかぶやえだまめなど本県が産出額で全国上位を誇る品目の産地であり、収益性の高い都市農業が展開されるとともに、沿岸部では貝類漁業やノリ養殖業などが営まれています。

柏の葉

## 3　まちづくり

本ゾーンは、人口密度が高く、また、鉄道網の発達により主要駅周辺を中心に、商業・アミューズメント施設や高層住宅など様々な都市機能が集積しています。一方で、東京湾、江戸川、手賀沼などの豊かな水辺空間や下総台地など、生活の潤いとなる自然環境も残されています。

東葛地域では、東京への近接性から、常磐線沿線を中心に早くから商業が栄えるとともに、つくばエクスプレス沿線では大規模な土地区画整理事業※により秩序ある住宅地･商業地等の形成が図られ、また、東京大学や千葉大学、公的研究機関等が最先端の研究を推進し、エネルギーや高齢社会などの課題に対応する新しいまちづくりを目指すなど、企業や大学などと連携した国際学術都市づくりが展開されています。

湾岸地域においても、総武線沿線を中心に、東京への通勤の利便性等から、一早く人口集積が見られ、また、幕張新都心においては、これまで、国際展示場、国際会議場などを有する幕張メッセをはじめ、国際的な企業、教育・研究施設、商業施設等の立地や住宅整備が進んでおり、今後も、京葉線新習志野・海浜幕張間に新駅「幕張豊砂駅」の設置が予定されています。

## 【ゾーンの方向性】

**多様な産業と都市機能の一層の充実を図り、
首都圏での都市間競争における
更なる優位性向上を図る**

通勤・通学などによる都内との交流が活発であり、人口も密集している本ゾーンでは、新たな感染症が発生した際に、ゾーン内において、急速な感染拡大が生じる可能性が高く、特に迅速かつ適切な対応が求められ、また、災害発生時においても帰宅困難者対策や広域避難など、重要な対応が迫られる地域です。

このため、政令指定都市や中核市などをはじめ、各市と連携した対策を推進していきます。

本ゾーンは、県都千葉市をはじめとする、充実した都市機能と活力を備えた都市群で形成されており、また、東京に隣接し、成田・羽田両空港の中間に位置することから、東京、成田空港間の人・モノ・財の流れを商業及び観光業など様々な分野に取り込み、活用していくことが期待されています。

県内外の交流･連携の強化や慢性的な交通混雑の解消を図り､国際競争力や首都圏の生産性を高めるため、北千葉道路の整備促進、京葉道路の渋滞対策、国道357号の機能強化、新たな湾岸道路及び千葉北西連絡道路の計画の具体化に向けて取り組むとともに、県境橋りょうや都市計画道路の整備を進めます。

また、こうした各種道路整備の進展も踏まえ、各市と連携し、企業誘致の受け皿となる産業用地の確保に努めていきます。

ゾーン内には、東京大学柏キャンパスや千葉大学をはじめとした理工系大学や東葛テクノプラザ、産業技術総合研究所柏センターなどの研究機関、国立がん研究センター東病院や千葉大学医学部附属病院の臨床研究中核病院、中小のものづくり企業などが集積していることから、これらを結び付ける医工連携などによる産学官連携の取組を進めることで、ものづくり産業の振興を図っていきます。

さらに、インキュベーション施設※やコワーキングスペース※が設置されるなどの取組も進められており、今後も多様で柔軟な働き方に対応した地域づくりを目指していきます。

また、幕張新都心においても、新駅設置の効果として期待される、利便性や回遊性の向上、都市機能の強化などを追い風に、更なるＭＩＣＥ※の誘致や国家戦略特区を活用した未来技術社会実装等の取組を促進するとともに、国際的ブランドイメージの向上を図っていきます。

都市農業の更なる発展を図るため、野菜や果樹等の特産品を生かした地域ブランドの確立などによる産地知名度の向上や、６次産業化※や農商工連携※などによる農林水産物の高付加価値化を促進します。

また、農地の持つ防災機能や教育機能などの多面的な機能の発揮に向け、農地の保全に努めます。

加えて、地場産業としての漁業の生産力を支えるため、干潟漁場の保全活動などに取り組んでいきます。

都心に近く、優れた都市機能を有するとともに、農地や公園などの都市に残された緑地空間や豊かな水辺空間など、潤いと安らぎにも恵まれた住環境等の情報を積極的に発信することにより、交流人口や関係人口の増加を図るとともに、働く世代、子育て世代等の移住促進や都心、他県への流出を防ぎ、地域への定着を促進していきます。

今後も、道路整備の進展による、首都圏各地、県内及び空港とのアクセス向上を追い風に、企業等の国内での更なる発展と海外への進出をサポートするとともに、東京、成田空港間の人・モノ・財の流れを様々な分野に取り込みつつ、本ゾーンの魅力を積極的に発信することで、首都圏での都市間競争における更なる優位性の向上を目指していきます。

注　東葛・湾岸ゾーンの「ゾーンの現状・特性」欄で数値を示す際には、次の市町村の数値を用いています。
千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、習志野市、柏市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ケ谷市、浦安市

# 印旛ゾーン

成田国際空港（提供:成田国際空港株式会社）

成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町及び栄町並びに八千代市、香取市、山武市、神崎町、多古町、芝山町及び横芝光町を中心とした地域

## 【ゾーンの現状・特性】

## 1　地域に暮らす人々

本ゾーンには、県人口の11%に当たる約72万人が居住しています。ゾーン内の65歳以上の高齢者の割合は28%と、県全体の割合と同程度となっており、また、15歳から64歳までの生産年齢人口の割合は58%であり、年齢構成の若いゾーンです。

令和12年には、ゾーン内の人口は約68万人、高齢化率は32%になると予想されています。

また、労働力人口に対する一次産業就業者の割合が4%、二次産業就業者の割合が19%、三次産業就業者の割合が77%となっており、おおむね県内の平均的な数値となっています。

東京や千葉市への通勤・通学者の割合が多い一方で、成田空港を有することもあり、昼夜間人口比率が100%を大きく超えている地域もあるなど、周辺市町村に対して大きな吸引力を持っています。

## 2　産業

本ゾーンは、日本の空の表玄関である成田空港を擁し、空港内は約4万人に及ぶ就業の場となっているほか、空港周辺や臨空工業団地を中心に物流関係企業や空港関連産業の集積が進んでいます。

千葉ニュータウンでは、住宅のほか、企業や大学等の業務・教育施設の集積が図られており、近年では、世界的企業も利用するマルチテナント型の先進的物流施設※群やデータセンターなどの立地が進んでいます。

また、成田市を中心とする成田商圏や印西市を中心とする印西商圏が形成され、大型店舗の立地が進むなど、周辺市町村からの吸引力を高めています。

さらに、佐倉工業団地、白井工業団地など、県内有数の内陸工業団地が整備されており、地域経済の拠点として大きな役割を果たしています。

また、東京へのアクセスが良く、印旛沼や利根川などの豊かな水資源や平坦な土地に恵まれていることから、すいか、なし、落花生の生産が盛んな地域であり、県内でも新規就農者や農業法人への就職が多い地域です。

さらに、年間約1,200万人の参詣客が訪れ、県内第2位の観光スポットとなっている成田山新勝寺をはじめ、佐倉城跡、武家屋敷群など「日本遺産※（北総四都市江戸紀行）」に認定された歴史的観光資源が数多く存在するとともに、県立房総のむらなどがあり、外国人観光客にも注目されている地域となっています。

成田山参道

## 3　まちづくり

本ゾーンは、鉄道や幹線道路の整備を背景として東京への通勤圏が拡大し、千葉ニュータウンなどの計画的で大規模な市街地の整備をはじめ、鉄道沿線等における住宅地の開発が進んできました。

特に、千葉ニュータウンにおいては、優れた環境の居住機能と業務・研究機能を併せ持つ複合都市づくりが計画的に進められるとともに、成田スカイアクセス開業により、空港へのアクセスが飛躍的に向上しました。

空港周辺地域においては、平成30年3月に、国･県･空港周辺9市町･成田国際空港株式会社（以下「ＮＡＡ」という。）で構成される四者協議会において合意された、第3滑走路の新設などを含む更なる機能

強化の効果を、地域振興に結び付けるとともに、周辺地域と空港との共栄を目指し、生活環境整備や公共施設整備などの地域整備が進められています。

また、「国際医療学園都市構想」の実現を図るため、国家戦略特区の指定を受けて、医科系大学・成田空港を核とした医療関連産業の集積を目指したまちづくりが進められています。

## 【ゾーンの方向性】

**成田空港の更なる機能強化等の効果や**
**国内外からの活力を生かした地域振興を図る**

本ゾーンは、成田空港という国際的な人・モノ・財の交流・連携拠点を持ち、今後、成田空港の更なる機能強化や交通網の整備による利便性の向上が進み、地域のポテンシャルが向上していくことから、人口減少や高齢化が進む千葉県を支える地域として期待されます。

圏央道の県内区間が全線開通することから、首都圏における交流・連携が強化され、生産性の向上、企業立地の促進及び防災力の強化等が図られるとともに、圏央道とアクアラインが一体となって広域的な幹線道路ネットワークが形成されます。

あわせて、北千葉道路の印西市・成田市間をはじめ、圏央道へのアクセス道路である国道296号や県道成田小見川鹿島港線などの整備や、圏央道と成田空港を直結する新たなインターチェンジの計画の具体化により、本ゾーンの交流・連携機能が更に高まることが見込まれています。

千葉ニュータウン周辺地域では、成田空港の更なる機能強化や北千葉道路の整備の効果により、多様な産業集積や居住の場としての魅力が高まっていくことから、企業立地の促進等により雇用の場の創出を図るとともに、交通の利便性や豊かな自然環境などの魅力を積極的に発信し、人口の増加につなげていきます。

空港周辺地域においても、成田空港の更なる機能強化や地域の特性、各種道路整備の効果を最大限に生かして活性化を図っていきます。

また、市町と連携して計画的な土地利用を進め、インターチェンジ周辺等の多様な産業の受け皿づくりを促進します。

農業では、恵まれた地理的条件を生かし、農作物の生産力強化や６次産業化等の促進による高付加価値化、海外輸出を含めた販路拡大などにより、更なる産地の発展を図ります。
加えて、新規就農や企業参入等に向けた相談体制を整備し、意欲ある担い手の確保・育成を図ります。

また、空港に隣接する成田市公設地方卸売市場は、農林水産物の海外輸出手続をワンストップで行う機能を持つとともに、国内外の観光客等を対象とした物販機能も併せ持つため、本ゾーンをはじめとする県産農林水産物の輸出促進と併せて、その魅力を世界へ発信する新たな拠点として期待されます。

隣接する香取・東総ゾーンも含めた、日本遺産等の多くの歴史的資源の活用などにより、トランジット※客の取り込みや外国人観光客も意識した観光地づくりに取り組むことで、国内はもとより、訪日外国人旅行者のゾーン内への更なる誘客を図ります。

また、東京への通勤圏であり、空港関連産業が集積する地域であるとともに、水辺・里山などの豊かな自然環境を有する魅力を積極的に発信することで、移住・定住の促進を図っていきます。

今後も、成田空港の更なる機能強化や交通利便性向上による、国内外からの人・モノ・財の流れを各分野に取り込みつつ、その効果を県全体の経済活性化につなげることを視野に、観光資源の広域的連携や一層の情報発信等による国内外からの来訪や空港周辺及び圏央道沿線等への企業立地を促進するなど、幅広い分野で、行政、住民、企業が一体となった地域振興を図っていきます。

注　印旛ゾーンの「ゾーンの現状・特性」欄で数値を示す際には、次の市町村の数値を用いています。
成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町

# 香取・東総ゾーン

屏風ヶ浦遠望（銚子市）　Photo© Matsugorou ISHIKAWA

銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町及び東庄町並びに成田市、芝山町及び横芝光町を中心とした地域

## 【ゾーンの現状・特性】

### 1　地域に暮らす人々

本ゾーンには、県人口の4%に当たる約26万人が居住しています。ゾーン内の65歳以上の高齢者の割合は36%と、県全体の割合より9ポイント高く、高齢化率が比較的高いゾーンです。

令和12年には、ゾーン内の人口は約22万人、高齢化率は40%になると予想されています。

また、労働力人口に対する一次産業就業者の割合が14%と県内で最も高い一方、三次産業就業者の割合は60%と6つのゾーンの中で最も低くなっています。

成田市と茨城県への通勤・通学者が比較的多く、日常生活においてこれらの地域とのつながりを感じるゾーンです。

## 2　産業

本ゾーンは、県内最大の農業産出額を誇り、農業が地域の基幹産業として発展しています。稲作は利根川沿いの地域で水田の基盤整備が進み、優良な水田地帯が広がり、良質な早場米の産地として有名です。また、キャベツ、だいこん、さつまいもなどの露地野菜※やトマト、きゅうりなどの施設園芸野菜が生産されているほか、植木の生産や畜産も盛んに行われています。

水産業では、銚子沖合に暖流の黒潮と寒流の親潮が交わる海の特色を生かした漁船漁業が盛んであり、サバ、マイワシ等の多獲性魚やキンメダイ、マグロ類等の高級魚が水揚げされる、全国トップクラスの水揚量を誇る銚子漁港を擁するとともに、水揚げされた水産物を利用した多様な水産加工業が集積する全国有数の水産基地を形成しています。

また、銚子市沖の海域は、風況が良く洋上風力発電のポテンシャルが高いことから「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」に基づく促進区域に指定されており、カーボンニュートラルの実現に向けた社会環境の変化の中で、新たな雇用の創出をはじめ、地域経済の活性化に寄与することが期待されています。

加えて、「日本遺産（北総四都市江戸紀行）」に認定された香取市佐原地区や銚子市外川地区の町並み、「ユネスコ無形文化遺産」にも登録された300年の伝統を誇る「佐原の大祭」、国の重要文化財に指定された犬吠埼灯台などの文化財、「日本ジオパーク」に認定されている犬吠埼や屏風ケ浦などの多様な地形や豊かな自然、太平洋や利根川などを望む雄大な景色を有しています。

さらに、地元の豊富で新鮮な農林水産物、各地域に点在する温泉、いも掘りやいちご狩りなどの収穫体験も人気で、県内外から多くの観光客が訪れています。

佐原の町並み

## 3　まちづくり

本ゾーンでは、自然景観や歴史・文化などの地域資源を有効に活用し、各地で個性豊かなまちづくりが進められており、中でも、水運を利用して「江戸優り（まさり）」といわれるほど栄えていた町並みの面影を残す、小野川沿岸や香取街道では、歴史的な景観を生かしたまちづくりが進んでいます。

圏央道については、大栄・横芝間で整備が進められているほか、暫定2車線区間の4車線化と併せて、休憩施設として道の駅と連携したパーキングエリアが整備される予定です。

また、圏央道の整備効果を東総・山武地域へ広く波及させる銚子連絡道路についても、横芝光町・匝瑳市間で事業が着実に進んでいるところです。

## 【ゾーンの方向性】

**農林水産業の産地機能の更なる強化を図るとともに、成田空港、北関東・東北方面とのつながりを生かし、多様な産業展開を図る**

本ゾーンは、農業、畜産業、水産業が発展した食料の一大生産地であるとともに、多彩な観光資源を有し、今後、洋上風力発電事業の進展も見込まれるなど、地域が持つポテンシャルは高く、道路ネットワークの整備進展や成田空港の更なる機能強化を契機に、本ゾーンの更なる活性化が期待されています。

圏央道を経由することで、茨城県のみならず北関東や東北方面などからの玄関口となっているとともに、成田空港の更なる機能強化や圏央道の県内区間の全線開通、銚子連絡道路の整備進展により、広域的な人・モノ・財の流れを積極的に取り込みつつ、産業振興やまちづくりを進めていきます。

また、地域の生活や産業基盤の安定化等を進めるため、国道356号などの幹線道路の整備推進、鉄道や路線バス等の維持・確保により、ゾーン内外の交流・連携の強化を図るとともに、市町と連携して計画的な土地利用を進め、インターチェンジ周辺等の多様な産業の受け皿づくりを促進します。

農業では、生産者の高齢化や担い手不足等に対応するため、スマート農業の推進、農業経営体や集落営農組織※の育成・支援を行うほか、農作物を守るための有害鳥獣対策等に取り組むとともに、水産業では、若者を中心とした漁業への就業促進、収益力の高い漁業経営体への転換、大型漁船に対応した拠点漁港の整備などに取り組み、力強い産地づくりを推進していきます。
さらに、新鮮で多種多様な農林水産物を活用した６次産業化や農商工連携等による高付加価値化の取組、成田空港を活用した海外輸出による販路拡大を促進します。

観光業では、利根川を中心とした水辺空間や里山などの魅力ある自然景観、日本ジオパーク、佐原の町並み等の歴史文化資源、道の駅、ふるさといも祭りや酒蔵まつりなど、地域資源を生かした観光を推進するとともに、訪日外国人旅行者も意識したプロモーションを推進し、成田空港からの更なる誘客を

促進します。

　また、多様な産業展開や豊かな自然、雄大な景色、多彩な食にあふれた本ゾーンの魅力を市町と連携し積極的に発信し、移住・定住の促進を図っていきます。

　今後も、道路ネットワークの進展や成田空港の更なる機能強化等を最大限に活用し、広域的な人･モノ･財の流れを取り込み、農林水産業や観光業の更なる振興を図るとともに、空港周辺のインターチェンジを核とした産業用地への企業誘致や銚子市沖の洋上風力発電事業の進展などにより新たな雇用を創出することで、地域の活性化を図ります。

注　香取･東総ゾーンの「ゾーンの現状･特性」欄で数値を示す際には、次の市町村の数値を用いています。
　　銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、神崎町、多古町、東庄町

# 九十九里ゾーン

九十九里浜

茂原市、東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町及び長南町並びに千葉市、成田市、旭市、市原市、八街市、富里市、匝瑳市、いすみ市、多古町及び大多喜町を中心とした地域

## 【ゾーンの現状・特性】

### 1　地域に暮らす人々

本ゾーンには、県人口の5%に当たる約34万人が居住しています。ゾーン内の65歳以上の高齢者の割合は34%と、県全体の割合より7ポイント高く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口は55%となっています。

令和12年には、ゾーン内の人口は約30万人、高齢化率は40%になると予想されています。

また、労働力人口に対する一次産業就業者の割合が8%、二次産業就業者の割合が25%、三次産業就業者の割合が67%となっており、産業就業者のバランスが取れたゾーンとなっています。

ＪＲ外房線、東金線、総武本線のほか、圏央道や千葉東金道路を活用した都心を含む多方面へのアクセスが良好で、通勤・通学圏となっています。

## 2　産業

本ゾーンは、日本有数の砂浜と松の緑が美しい九十九里浜や水田などが広がる九十九里平野、緑豊かな里山風景を擁する房総丘陵など多彩な自然に恵まれており、また、太平洋を北上する黒潮の影響を受け、年間を通じて温暖な気候となっています。

肥沃な土壌と温暖な気候により、米、ねぎ、トマトなどバラエティに富んだ農作物の生産が盛んであり、農業は本ゾーンの主要な産業の一つとなっています。また、古くからサンブスギと呼ばれる挿し木による林業が行われてきた地域として全国的にも有名です。

水産業では、イワシやハマグリなどの資源に恵まれ、これらを使用した水産加工業も盛んに行われています。

また、茂原にいはる工業団地など多くの工業団地を中心に、電子機器や機械・化学等の企業が集積しているほか、成田空港周辺においては、物流企業の立地が進んでいます。

さらに、郊外の幹線道路沿いに商業施設の集積が見られ、複数の商圏が形成されています。

## 3　まちづくり

本ゾーンは、鉄道路線や圏央道が地域内を縦断しており、これらを利用した東葛・湾岸ゾーン、都内への通勤・通学圏として、住宅地等の整備が進められてきました。

県内で初めてブルーフラッグ※を取得した本須賀海水浴場をはじめ、多くの海水浴場が存在するとともに、いちご狩りや地引き網などの体験型観光、テニスや乗馬などのスポーツを楽しむことができるなど、首都圏のレクリエーション地域として有名です。また、釣ヶ崎海岸が東京2020大会のサーフィン競技会場となるなど、サーフィンをはじめとするマリンレジャーの更なる盛り上がりやオリンピックのレガシー※を活用した地域活性化も期待されています。さらに、九十九里浜沿岸はヨードの世界有数の生産地であり、ヨードを含む天然温泉も多数存在しています。

チーバくん（いちご狩り）

また、圏央道の整備効果を香取・東総ゾーンや南房総・外房ゾーンへも波及させる銚子連絡道路、長生グリーンラインの整備を図るとともに、廃校となった小学校などの空き公共施設を活

用した企業誘致の取組も進められています。

さらに、一宮川流域では、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる流域治水※が必要となっており、中小河川としては全国に先駆けて、「一宮川水系流域治水プロジェクト」も進めています。

## 【ゾーンの方向性】

**圏央道整備効果を**
**様々な産業活動に取り込むとともに、**
**各種産業の連携による地域振興を図る**

本ゾーンは、広域的な幹線道路ネットワークの整備進展や、成田空港の更なる機能強化によって、都心を含む多方面へのアクセスや、企業立地の優位性、産業競争力などが向上し、地域の持つポテンシャルが格段に高まっていることから、その効果を商工業や農林水産業など各種産業に取り込んでいくことが期待されています。

そこで、圏央道の県内区間の全線開通や、銚子連絡道路、長生グリーンラインなど圏央道へのアクセス道路の整備を進めることで、隣接するゾーンからの人・モノ・財の流れを各種産業活動に取り込むとともに、地域振興の基盤としても重要な役割を担う鉄道や路線バス等の維持・確保に向けた取組を推進します。

また、道路ネットワーク整備や成田空港の更なる機能強化の効果を生かし、企業立地を促進するとともに、市町村と連携して計画的な土地利用を進め、インターチェンジ周辺等の多様な産業の受け皿づくりを促進します。

さらに、主要産業の一つである農林水産業の更なる発展に向け、６次産業化や農商工連携の促進による高付加価値化を進めるとともに、スマート技術の積極的な導入や担い手不足の解消等に取り組み、生産体制の強化を図ります。

観光業においては、海や里山など魅力的な自然環境をはじめ、農作物の収穫や地引き網、ガラス工芸の制作などの体験型観光や、ビーチサッカー、サイクリング等のスポーツ観光など、多様な観光資源の

積極的な発信を行うとともに、観光・宿泊施設等における国内外からの受入体制の強化に努めます。

また、九十九里浜周辺の多様な利活用等について、官民が連携して検討するとともに、世界的なサーフィンの適地として注目が高まる中、良い波や風、陽光、見渡す限りの砂浜など、九十九里の魅力を求めて集まる人々の活力や感性、ライフスタイルなどをまちづくりや産業振興に生かしていきます。

さらに、九十九里浜の景観等の保持に取り組むとともに、豊かな自然と都心を含む多方面へのアクセスが良好であることを生かし、新たなライフスタイルを求める人を引き付ける魅力ある地域づくりに取り組むことにより、本ゾーンへの移住・定住を促進します。

今後も、広域的な幹線道路ネットワークの整備進展や成田空港の更なる機能強化等の効果を最大限に活用し、企業や観光客の誘致、農林水産物の販路拡大、魅力的な地域づくりなどに取り組むとともに、農林水産業や観光業など各種産業の連携による地域振興を図っていきます。

注　九十九里ゾーンの「ゾーンの現状・特性」欄で数値を示す際には、次の市町村の数値を用いています。
茂原市、東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町

# 南房総・外房ゾーン

大山千枚田

館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町及び鋸南町並びに市原市、君津市、富津市、一宮町、睦沢町及び長南町を中心とした地域

## 【ゾーンの現状・特性】

### 1　地域に暮らす人々

本ゾーンには、県人口の3%に当たる約19万人が居住しています。ゾーン内の65歳以上の高齢者の割合は43%と、県平均より16ポイント高く、高齢化率の高いゾーンです。

令和12年には、ゾーン内の人口は約16万人、高齢化率は46%になると予想されています。

また、労働力人口に対する一次産業就業者の割合が12%、三次産業就業者の割合が72%と県内でも高くなっています。

県外への通勤・通学者の割合は1%以下と県内で最も少なく、市町村別の昼夜間人口比率は平均95%とゾーン内で活動している人の多い地域です。

## 2　産業

本ゾーンは、多くの恵まれた漁場を有していることから、勝浦漁港や鴨川漁港、大原漁港等の数多くの漁港が存在し、カツオやアワビ、イセエビ等の種類に富んだ水産物が水揚げされるとともに、地元水産物を利用した水産加工業も発達しており、地域の重要な産業の一つとなっています。また、和田漁港は関東唯一の捕鯨基地として特徴ある地域の食文化を形成しています。

農業では、温暖な気候や豊かな自然を生かし、米を中心に、びわや花き等の多彩な特産品が生産されています。

温暖な気候と海や緑豊かな自然環境に恵まれていることから、多くの観光施設や宿泊施設などがある観光業の盛んなゾーンです。夏は海水浴、冬から春にかけては花摘みやいちご狩りといった観光とともに、サーフィン、ＳＵＰ※（スタンドアップパドル）やダイビングなど多様なマリンスポーツも楽しむことができます。

いすみ市Jr.サーフィンスクール（提供:いすみ市B&G海洋センター）

さらに、多くの道の駅や直売所が点在しており、地元の新鮮な農林水産物や加工品等を販売するだけでなく、農業体験等のメニューもあり、魅力ある地域資源を集約した観光の要となっています。

また、個人旅行客だけでなく、本ゾーンならではの自然環境を生かした教育旅行の誘致や学生のスポーツ合宿など団体客の受け入れにも取り組んでいます。さらに、近年は、「食」による観光振興も盛んになっています。

本ゾーンのいすみ市沖の海域が、令和3年9月に、「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律」に基づく促進区域の指定に向けた「有望な区域」として指定され、関係者の協力の下、協議が行われており、県内2番目の指定区域となることが期待されています。

## 3　まちづくり

本ゾーンは、豊かな自然や歴史、文化等の地域資源を生かしたまちづくりが進められており、温暖な気候や海を生かした風光明媚なリゾート地、漁港や桟橋を中心とした港町、歴史的な建物が今も残る城下町のほか、先進医療機関を生かした医療・介護のまちづくりなども進められています。

また、アクアラインと一体となって広域的な幹線道路ネットワークを形成する圏央道の整備進展や館山道などの4車線化により、東京・神奈川や東葛・湾岸ゾーン、内房ゾーンとの交流・連携機能の強化

が図られています。
　こうした温暖な気候や魅力あるまちづくり、道路ネットワークの整備進展などにより、首都圏における移住・定住先としての人気が高い地域となっています。

## 【ゾーンの方向性】

**海と緑に囲まれた自然環境や**
**多様なライフスタイルの魅力を発信し、**
**観光や移住を促進することで地域振興を図る**

　本ゾーンは、多くの観光資源に恵まれ、首都圏有数の観光・リゾート地として多くの観光客が訪れるとともに、近年は、館山道や圏央道などの整備進展による高速バス路線の充実により、通勤・通学範囲が広がり、また都心に近接しつつ、海や里山など豊かな自然環境を有することなどが魅力となり、都市部に暮らす人々を中心に移住・定住先としての関心が高まっています。

　そこで、富津館山道路の4車線化、圏央道の県内区間の全線開通や暫定2車線区間の4車線化を促進するとともに、長生グリーンラインをはじめとする国道や県道の整備を推進することで、都心や他ゾーンからの人・モノ・財の流れも、産業振興やまちづくりに取り込んでいくことが期待されます。
　また、道路交通網の整備以外にも日常生活や観光の基盤となる鉄道や路線バス等の維持・確保に取り組んでいく必要があります。

　農林水産業では、担い手不足を解消するため、スマート技術の活用を図るとともに、地域が一体となって行う新規就業者の育成・支援や、集落を支える多様な人材との連携に取り組みます。
　また、豊かな地域資源を生かすため、６次産業化に取り組む農林漁業者を支援するとともに、グリーン・ブルーツーリズム※などの取組により、都市部との交流を促進することで、農山漁村の活性化を図ります。
　深刻化する有害鳥獣被害については、地域ぐるみでの対策を推進するとともに、捕獲した有害鳥獣を地域資源として活用する取組を支援します。

　観光業では、海や里山など本ゾーンの魅力的な自然環境などを発信するとともに、一年中楽しめる豊かな自然環境を生かした体験型観光、マリンスポーツやサイクリングをはじめとする各種スポーツツー

リズム※、リゾート地等で余暇を楽しみつつテレワーク等を活用して仕事を行うワーケーションの取組などを推進していきます。

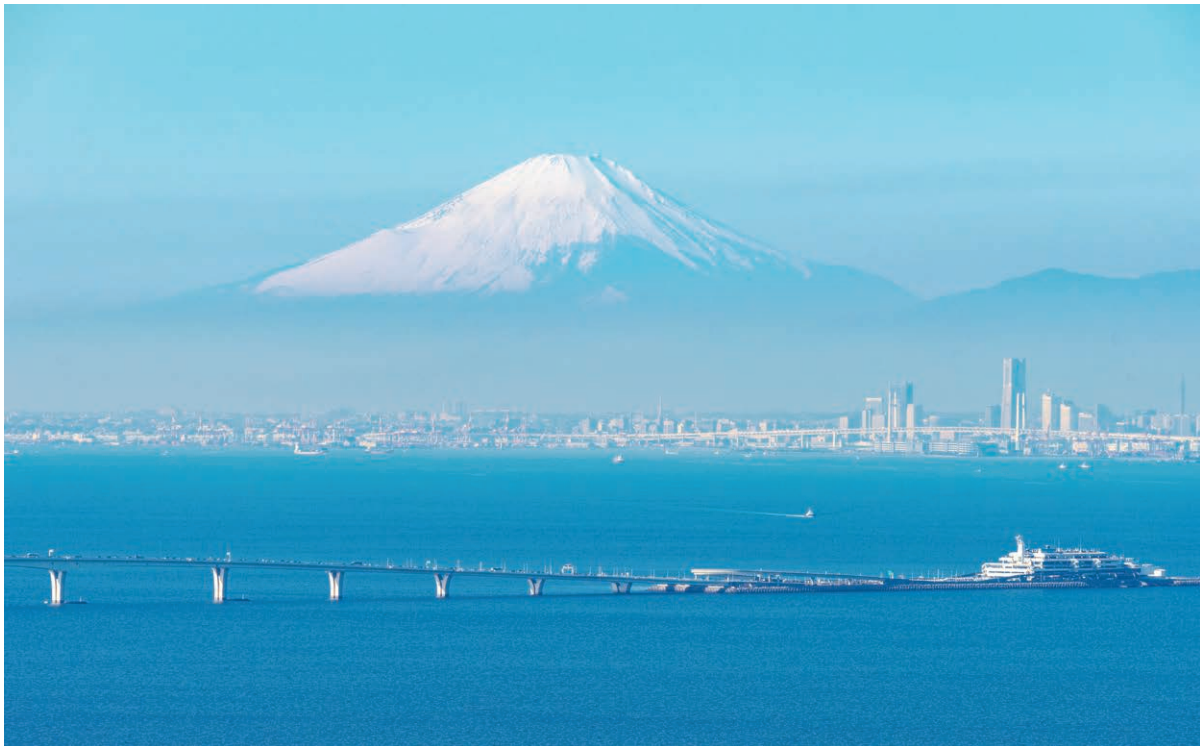
さらに、新たなインバウンド※需要の創出に向けて、圏央道やアクアラインなどを介し、訪日外国人旅行者の来訪も意識したプロモーションを推進し、成田空港や羽田空港からの更なる誘客を促進します。

移住検討者に対しては、趣味やレジャーを満喫する二地域居住、自然の中での子育て、温暖な気候でのセカンドライフなど、多様なライフスタイルを実現できる地域の魅力、都心や内房ゾーン等への通勤圏であることを、市町と共に積極的に情報発信し、幅広い世代の移住・定住の促進を図ります。

今後も、道路整備の進展による人・モノ・財の流れを取り込み、観光業や農林水産業の振興を促進しつつ、空き公共施設や医療機関等の地域資源の活用、洋上風力発電事業等の新たなビジネス展開による雇用の創出を図るとともに、豊かな自然環境等の地域の魅力を積極的に発信することで、観光客の誘客や移住・定住を促進し、地域振興を図っていきます。

注　南房総・外房ゾーンの「ゾーンの現状・特性」欄で数値を示す際には、次の市町村の数値を用いています。
館山市、勝浦市、鴨川市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町

# 内房ゾーン



富士山と東京湾アクアライン

木更津市、市原市、君津市、富津市及び袖ケ浦市並びに千葉市、茂原市、鴨川市、長柄町、長南町、大多喜町及び鋸南町を中心とした地域

## 【ゾーンの現状・特性】

### 1　地域に暮らす人々

本ゾーンには、県人口の9%に当たる約59万人が居住しています。ゾーン内の65歳以上の高齢者の割合は30%と、県全体の割合より3ポイント高く、また、15歳から64歳までの生産年齢人口が57%と、県平均とほぼ同水準となっています。

令和12年には、ゾーン内の人口は約55万人、高齢化率は32%になると予想されています。

また、労働力人口に対する一次産業就業者の割合が3%と低い一方、二次産業就業者の割合が約29%と県内で最も高くなっています。

アクアラインなどの交通網整備の効果により、東京・神奈川方面や県内各地など多方面への通勤・通

学圏となっています。

## 2　産業

本ゾーンでは、東京湾臨海部の埋め立てにより、日本を代表する素材・エネルギー型産業の工業地帯が形成されています。現在でも、県内の製造品出荷額等の半分以上を占め、今後も、本県経済のけん引役として重要な役割を担っていくことが期待されます。

また、かずさアカデミアパークには、かずさＤＮＡ研究所をはじめとする研究開発施設や製薬、新素材など幅広い産業の立地が進められてきました。さらに、アクアラインの通行料金引下げの効果もあり、東京・神奈川方面へのアクセスが向上したことから、アクアライン着岸地周辺地域において大規模商業施設や工業団地等への企業の立地が進んでいます。

農業では、米、なし、ブルーベリーなどの栽培が盛んであるとともに、全国有数のカラーの生産地であり、えだまめで人気の「小糸在来」の特産地としても有名です。

水産業では品質の高さが全国的に有名なノリの養殖や貝類漁業、小型底引き網漁業などが営まれています。

また、海ほたるや大規模商業施設、ゴルフ場など集客力の高いスポットが多数存在するほか、近年の工場夜景ブームを受け、市原市の石油化学コンビナートを中心とした東京湾臨海部の工場群も観光資源となっています。

京葉臨海コンビナート

## 3　まちづくり

本ゾーンでは、アクアラインなどを利用した各方面への通勤・通学圏としての優位性が高まっており、千葉県の玄関口であるアクアライン着岸地周辺においては、大規模な土地区画整理事業が実施され、道路、住宅地、商業施設等の整備が進められています。

また、圏央道などの整備進展による利便性向上等の効果を他ゾーンに波及させる、国道410号などのアクセス道路の整備も進められています。

こうした、計画的で住みよいまちづくりと道路ネットワークの整備進展によって、居住地としての人気が高まっており、本ゾーンの更なる活性化が期待されています。

## 【ゾーンの方向性】

### 道路網を介した他地域との交流機能を生かし、幅広い産業を活用した地域振興を図る

本ゾーンは、アクアラインの着岸地に位置し、対岸である東京・神奈川からの玄関口であるとともに、広域的な幹線道路であるアクアラインや圏央道、館山道が交わる県内交通の要衝となる地域です。

県内の道路ネットワークの整備進展やアクアラインの通行料金引下げ、高速バスネットワークの充実等により、東京・神奈川方面や他ゾーンへの通勤・通学圏としての優位性が向上していることから、居住の場としてのポテンシャルが高まっています。また、今後も更なる企業の進出が見込まれることから、雇用の場としての役割も期待されています。

そこで、県内の道路ネットワークの整備効果が更に発揮されるよう、圏央道などの幹線道路にアクセスする道路の整備に取り組み、東京・神奈川や他ゾーンとの交流・連携を促進させることで、人・モノ・財の流れを一層取り込むとともに、地域振興の基盤としても重要な役割を担う、鉄道や路線バス等の維持・確保に向けた取組を推進していきます。

京葉臨海コンビナートにおいては、これまでも国内需要の動向や世界規模での競争の激化等に対応して、事業の再編や高度化などが図られるとともに、脱炭素社会の実現に向け、水素の利活用や新素材の開発などの様々な取組が実施されており、今後も、企業の課題やニーズをきめ細やかに把握しながら、企業間連携の促進や国への規制緩和の働きかけなどを通じて、企業の事業環境の向上を図っていきます。

また、かずさアカデミアパークにおいて、ゾーン内外の研究開発機能や産業集積との連携を促進するとともに、生産システムや技術面でモデルとなるマザー工場や研究施設など、多様な分野の立地推進につなげていきます。

さらに、市町と連携して計画的な土地利用を進め、インターチェンジ周辺等の多様な産業の受け皿づくりを促進します。

また、東京に近接するなど立地の優位性を有し、マーケット需要にも対応できる都市近郊農業の一層の発展を目指し、６次産業化や農商工連携の促進による高付加価値化等を推進するとともに、ノリの養殖や貝類などに代表される東京湾漁業の振興を図ります。

あわせて、意欲ある担い手の確保・育成のための体制づくりの促進や有害鳥獣対策にも、引き続き取

り組んでいきます。

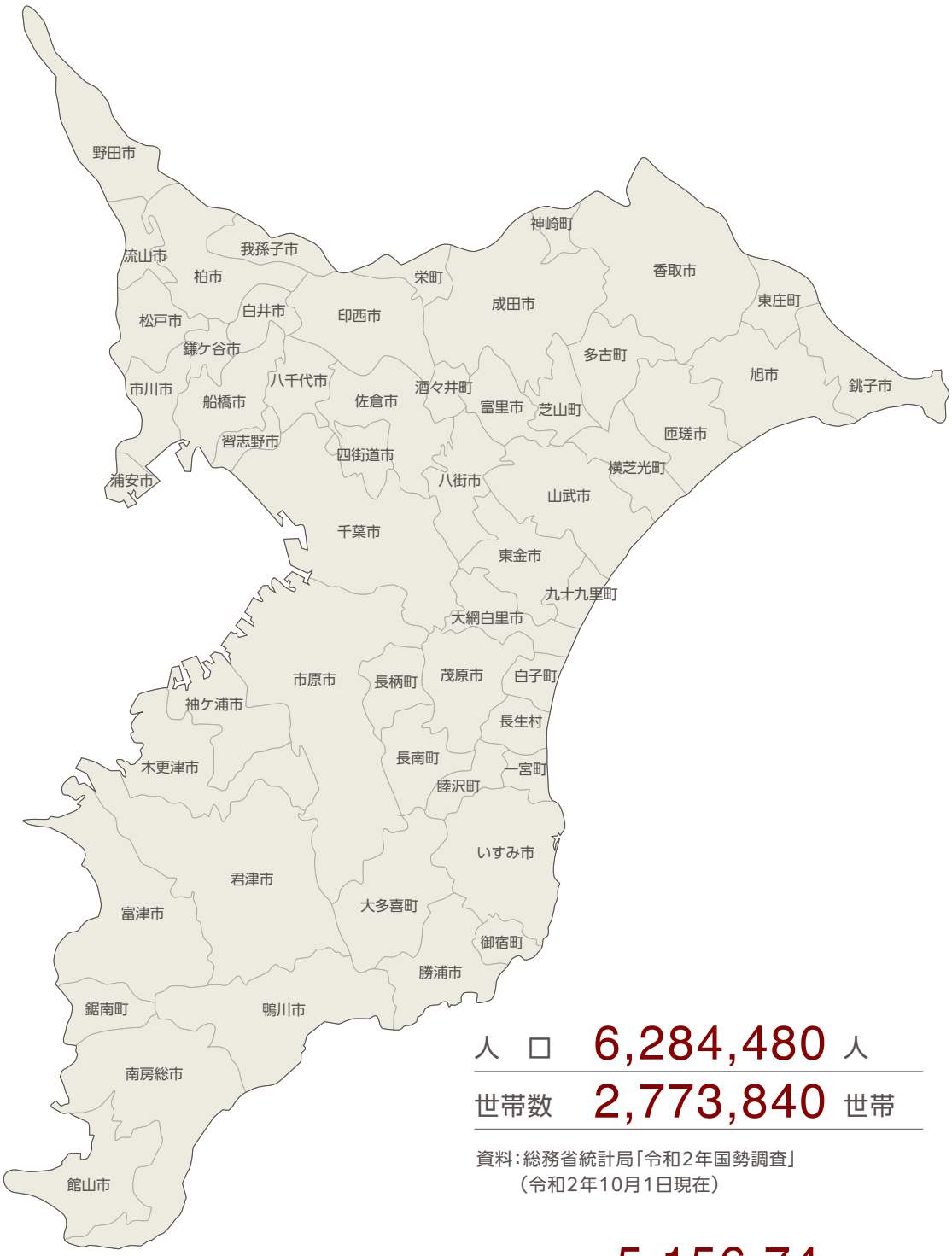
さらに、本ゾーンは、潮干狩りなどが楽しめる東京湾の干潟や緑豊かな房総丘陵、一番新しい地磁気逆転が記録され、時代を分ける境界がよく分かる地層として世界的に認められた「チバニアン」などの多彩な自然環境を有するとともに、工場夜景など近代的な景観も見られ、多種多様な魅力ある観光スポットに恵まれています。

こうした多彩な観光資源の魅力を積極的に発信するとともに、広域的な幹線道路ネットワークや房総半島の玄関口である海ほたるを活用し、県内外からの観光客の呼び込みにつなげていきます。

今後も、広域的な幹線道路ネットワークの整備進展によるアクセス向上や新たな湾岸道路の計画の具体化を追い風に、国内外からの企業誘致の推進、かずさアカデミアパークを活用した新たな産業の創出、観光資源の魅力発信、東京湾臨海部の工業地帯の更なる競争力強化に取り組むことで、本県の産業経済をけん引する拠点の1つとなることを目指していきます。

注　内房ゾーンの「ゾーンの現状・特性」欄で数値を示す際には、次の市町村の数値を用いています。
木更津市、市原市、君津市、富津市、袖ケ浦市

# 千葉県図




| | | |
|---|---|---|
| 人　口 | 6,284,480 | 人 |
| 世帯数 | 2,773,840 | 世帯 |

資料：総務省統計局「令和2年国勢調査」
（令和2年10月1日現在）

| | | |
|---|---|---|
| 面　積 | 5,156.74 | km² |

資料：国土交通省国土地理院
「令和4年全国都道府県市区町村別面積調」
（令和4年4月1日時点）